

## 初心者を対象とした

6J-5

## 大学における書誌データベース利用教育

金沢みどり

東洋英和女学院大学人間科学部

## 1. はじめに

近年、様々な種類の電子情報源が日本の社会に普及してきたが、その中でも特にCD-ROMデータベースの普及が著しい。CD-ROMデータベースとして、図書・刊行物情報などの書誌データベースが広く社会に提供されている。

CD-ROMデータベースについては、これまでの調査結果から、初心者にとって利用しやすいものの、必ずしも質の高い検索が実施されているとは言えない。

そこで、本研究では、データベース利用の初心者である大学生を対象として、図書情報のデータベースを検索する際に必要とされる基礎的知識を習得させるために、CAIコースウェアの開発を行なった。更に、データベース利用の初心者である大学1年生を対象として、開発したCAIコースウェアによる教育を実施した。

## 2. CAIコースウェアの教育目標

以下に、CAIコースウェアの教育目標を示す。

## ①情報検索におけるデータベースの利用

情報検索とは何か、及び、情報検索とデータベースの種類について理解させ、目的に応じたデータベースの選択ができるようにする。

## ②CD-ROM検索の特徴

オンライン検索と比較したCD-ROM検索の長所と短所について理解させ、両者の使い分けができ

るようにする。

## ③図書情報のデータベースのデータ項目

図書の書誌事項に関する項目と図書の主題に関する項目について、各項目の正しい意味を理解させ、書誌事項からも主題からも検索ができるようにする。

## ④検索式における論理演算子の活用

論理演算子を使って検索式を作成することの意義、論理演算子の機能について理解させ、正しい検索式を作成できるようにする。

## ⑤件名検索

件名検索の意義、件名検索の手順、件名LOOK-UP機能や件名標目表の利用による件名の探し方について理解させ、件名検索を適切に行なえるようにする。

## 3. CAIコースウェアの特徴

FCAIにより開発したチュートリアル型CAIコースウェアは、情報検索におけるデータベースの利用、CD-ROM検索の特徴、図書情報のデータベースのデータ項目、検索式における論理演算子の活用、演習という5つのコースから構成されている。

## ①各コースとも説明のあとに質問を設定した。

学習者が注意力を持続させながら積極的に学習に取り組めるように、各コースとも説明のあとに多肢選択形式の質問をいくつか設定した。

## ②学習者の回答に対して、フィードバックを与えた。

回答が正しい時には、肯定の言葉を与え、正しくない時には、正解に導くためのヒントを与えた。学習者はヒントを参考にしながら、もう一度質問に答えることができる。

## ③学習者の応用力を育成するために、演習を設けた。

CAIコースウェアの最後のコースでは、これまでに学習した基礎的な事柄を確認し、応用力を育成するために、具体的な検索事例に基づきながら、演

---

Bibliographic Database Use Education

for Beginners in Higher Education

Midori Kanazawa

Toyo Eiwa Women's University

32 Miho-cho, Midori-ku, Yokohama-shi

習を行なうことができる。演習では、特に件名による検索に主眼を置いた。図1に示すように、件名検索の手順が画面に示された後、件名検索に関する演習問題が複数出題される。学習者が正しい手順に従って順番に問題に答えていくと、最終的に図2に示すような検索結果が画面に表示される。

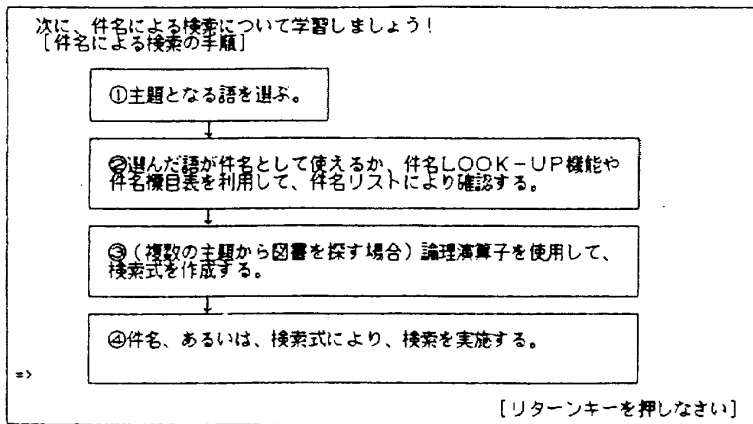


図1 件名検索の手順

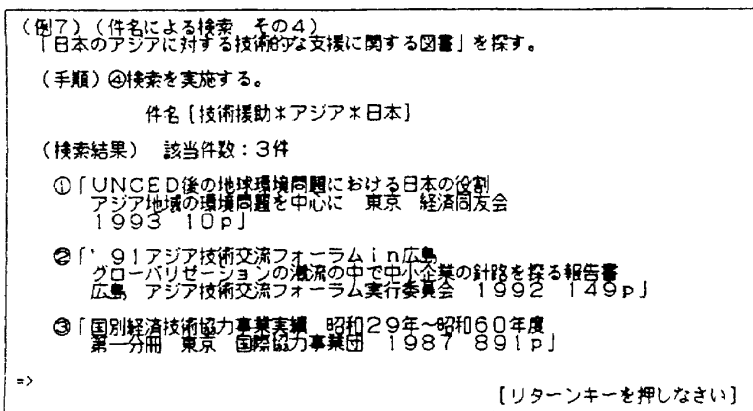


図2 件名による検索結果の例

④演習にはいる前に、図書を探す方法について代表的なパターンを示した。

学習者が、図書を探す方法についてこれまでに学習した事柄を整理してから演習にのぞめるように、図書を探す方法についていくつかのパターンに分けて例示しながら図にまとめた。

#### 4. 初心者を対象としたCAIによる書誌データベース利用教育

データベース利用の初心者61名を対象として、開発したCAIコースウェアによる教育を実施した。実施前に、まず、事前テストを行なった。次に、学生は約90分間の授業2コマにわたり、5つのコース

を順番に学習した。5つのコースを学習後、時間があれば、理解の足りないと思われるコースを繰り返し学習した。CAIによる学習終了後、事後テストを行なった。事前テスト、事後テストとも、テスト問題の形式は多肢選択形式であり、得点は30点満点である。

表1は、事前テストと事後テストの結果について、各項目ごとに正解率をまとめたものである。事後テストの正解率は、すべての項目について、事前テストの正解率を上回っている。特に、「件名検索」、「図書情報のデータベースのデータ項目」、「CD-ROM検索の特徴」については、事前テストのきわめて低い正解率に対して、事後テストの正解率の上昇が著しい。

表1 テストの結果

順位	事前テスト 正解者数 (%)	内 容	事後テスト 正解者数 (%)
1	46名 (75.4%)	情報検索におけるデータベースの利用	56名 (91.8%)
2	38名 (62.3%)	検索式における論理演算子の活用	58名 (95.1%)
3	11名 (18.0%)	CD-ROM検索の特徴	52名 (85.2%)
4	0名 (0%)	件名検索	51名 (83.6%)
4	0名 (0%)	図書情報のデータベースのデータ項目	37名 (60.7%)

図3は、事前テストと事後テストの得点の分布を示したものである。事前テストの得点の分布と事後テストの得点の分布には、違いがある。また、各々の平均点は、t検定の結果から有意の差がある。

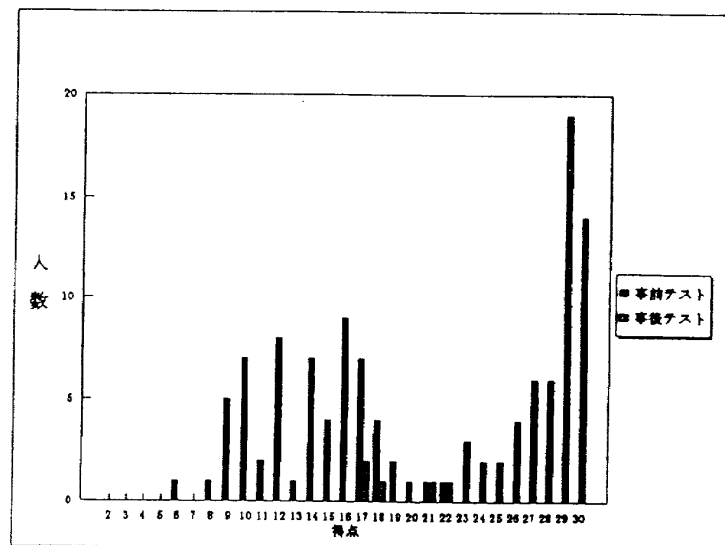


図3 テストの得点の分布